

平成27年度第8回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成28年1月29日（金）9：00～10：00

場 所：各コア校（遠隔配信）

議 題：

1. 平成26年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について
 - ・平成26年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について（案）【資料1】
2. 平成27年度SPOD事業達成度について
 - ・SPOD事業の定量的指標達成度一覧（案）【資料2】
3. 平成28年度SPOD事業計画について
 - ・平成28年度SPOD事業計画（案）【資料3】
4. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員の改選について
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」の役員の改選について（案）【資料4－1】
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿（案）【資料4－2】
5. 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会等の開催について
 - ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会 実施要項（案）【資料5】
6. 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施について
 - ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施要項【資料6】
7. 平成27年度SPOD事業評価委員会の開催について
 - ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）事業評価委員会実施要項（案）【資料7】
8. その他
 - ・SPOD将来構想案について【資料8】
 - ・「SPODフォーラム」四国地区各県持ち回り開催について【資料9】

平成26年度SPOD事業評価委員会からの
指摘事項に対する対応策について（案）

■平成26年度の対応について

SPODでは平成25年度末に「SPOD将来構想ワーキンググループ（以下、将来構想WG）」を設置し、事業の見直し等について中長期的な検討を行っている。

今回事業評価委員からいただいたご意見は、将来構想WGの検討事項と重複するものが多いため、将来構想WGでの議論を踏まえ、下記のポイントに対する検討状況をもって、今回の指摘事項への対応とするものである。

1. 将来構想WGの議論の実質化
2. 事業の量的な継続から質的な精選の検討（事業見直し）、分類見直し
3. FD・SDを提供できる人材を育成する事業の考え方
4. 各大学でのSPOD事業の位置付け
5. 効果検証、単年又は複数年の目標設定評価

■平成26年度事業評価委員会からの指摘事項の対応状況

1. 将来構想WGの議論の実質化
2. 事業の量的な継続から質的な精選の検討（事業見直し）、分類見直し

平成25年度から発足した将来構想WGでは、SPODの将来的な方向性について検討しているが、これらの検討状況を踏まえ、「SPODという名称は継続的に使用する」「SPODフォーラムを国内最高の教職員研修の機会にする」「SDの取り組みを発展させる」「FDの取り組みは焦点化して取り組む」「持続可能なSPODの組織体制を構築する」を長期的方針として、SPODフォーラム、SDについて発展的に取組み、FDについては、FDプログラムをSPODフォーラムに集約したり、FD担当者の支援を行うなど焦点化して取り組むことなどの方向性で進めていく予定となった。

また、次年度以降新たに「情報提供サービス」を事業として追加し、ホームページやメールマガジンなどを通じて、SPOD事業の情報発信を引き続き行っていく。

3. FD・SDを提供できる人材を育成する事業の考え方

SPOD各加盟校において、FD・SDを提供できる人材が育成されることで、SPOD及び

各加盟校の能力開発に関する取り組みが発展し、自律（立）的運営が促進すると考えられる。このため、SPODではSDについて、講師養成講座を継続的に開催している。平成26年度までの受講者65名のうち、12名が平成27年度に「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」「SPODフォーラム」等の講師を務めているほか、各加盟校で実施する学内研修の講師を務める者もいるなど、内部講師養成の成果が現れている。また、FDについては、来年度「FD担当者研修」を行い、FD・SDを提供できる人材育成の礎を築いていく予定である。

4. 各大学でのSPOD事業の位置付け

FDについては、各コア校で実施される新任教員研修において、5回の研修で延べ加盟校24校の教員が参加している。SDについては、大学人・社会人のための基礎力養成プログラムにおいて、各プログラムで加盟校10校程度の職員が参加している。また、SPODフォーラムについては、24法人中22法人の教職員が参加しており、加盟校の中にはSPOD研修の年1回以上の参加を義務づけている加盟校もある。さらに、年1回各加盟校にSPOD講師を派遣し研修を行うSPOD内講師派遣については、24法人中22法人の加盟校が利用しており、各加盟校がこれらの事業を活用していることが伺える。また、将来構想WGを中心に検討されたSPODの長期的な方針において、持続可能なSPODの組織体制を構築することを目的として、SPOD事業を各加盟校のFD・SD戦略に組み込むことを検討しており、これにより各大学でのSPOD事業の位置付けがより明確になると考えられる。

5. 効果検証、単年又は複数年の目標設定評価

FD事業、SD事業、SPODフォーラム、講師派遣事業等で参加者数、参加加盟校数、満足度等を指標として今年度の目標評価設定を行い、これにより各事業の達成度等をはかることができた。各事業とも満足度は非常に高くすべての事業で達成度5（満足度90%以上）となっている。またSPODフォーラムはすべての項目で達成度5となっており、SPODのメインイベントとしての役割を担っている。一方で、参加人数、参加加盟校で達成度が1（60%未満）のプログラムもあるため、これらのプログラムについては定員、内容等の見直しやSPODフォーラム等での焦点的な実施などについて検討するとともに、評価指標の見直しや複数年の目標設定評価等についても検討する。なお、大学人・社会人としての基礎力養成プログラムでは、研修後受講者に研修目標に対し到達点がどのレベルに変化したかを確認する「自己点検表」の提出させており、これにより自身及び講師等がより明確に研修効果を確認できている。

平成26年度SPOD事業の評価について

SPODでは、毎年度事業評価を行い、次年度の事業に活用することとしている。

このたび、平成26年度事業について、5名の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)事業評価委員会委員から活動報告書及びヒアリングをもとに評価をいただいた。

各委員からは、SPOD設立10年目を前に事業の再検討を行うために設置した「将来構想ワーキンググループ」が本格的に始動したことに関して高い評価をいただいた。一方で、達成目標の設定及び達成度を判断する評価基準を明確化することなどが求められた。各委員からの主な意見は以下のとおり。

【1】活動計画及び活動実績について

①FD

(強み)

【新任教員研修】

- ・基準枠組みに基づいたプログラムの標準化を行い、SPOD全体で実施していることは特筆に値する。

- ・充実した研修プログラムを持つ余裕のない大学にとっては、SPODという大学間連携の強みが最大限にいかされた事業である。開催大学だけでなく他大学からの参加がある点も、参加者相互の交流が見込まれる点、SPODならではの強みかと思う。事後アンケートからも参加者の満足度は高く、ぜひ続けてほしい事業である。

- ・過去3年間の受講者に対するアンケート調査を実施し、単発的な研修ながら研修後にも中期的な効果を上げていることを確認した点は大いに評価できる。

【ティーチング・ポートフォリオ】

- ・教育業績記録(ティーチング・ポートフォリオ)研修、更新ワークショップは教員個人の教育実践の振り返りに必須の道具、技能であり、今後も発展されることを望む。

- ・安定的な開催が続けられている点は素晴らしい。あわせて更新ワークショップも開催され、ポートフォリオの継続的活用の支援という観点からも好ましい体制が作られている。

【各種FDプログラム】

- ・教育現場の実態を踏まえた様々なテーマについて幅広く実施している。
- ・時宜にあったプログラムを開発している点は素晴らしい。
- ・プログラムの充実ぶりと、その維持(ルーティーン化)については申し分ないと思われる。

(弱み)

【ティーチング・ポートフォリオ】

- ・参加者があまり多くないのが気にはなる。作成ワークショップの開催だけでなく、ティーチング・ポートフォリオそのものの周知を目的としたセミナーや体験版(ポートフォリオチャート)のミニ・ワークショップなど、認知度をあげる工夫が必要なのではないか。

【各種FDプログラム】

・FDを提供できる人材を育成する事業についても、SPOD事業の継続を考えた時には設計があると思う。

・PFF（プレFD）、TA講習などが（新任教員研修でも用いられる）基準枠組みの中でどう位置付けられるのか。SPODの中で規定するのは難しいが、標準化の対象となろう。

【FD事業全般】

・今後は、これまでの事業を（量的に）継続するだけでなく、SPODの将来構想と見合わせながらの（質的な）精選について検討が必要となるはずである。

SD

（強み）

【全体】

・事業全体が極めて体系的、網羅的なプログラムからなり、他大学、地域の追随を許さないものである。

・全体として、専門職養成プログラム、次世代養成ゼミナール、講師養成講座、SPOD-SDCの認定などSDプログラムが非常に充実している点は、他の大学、コンソーシアムに例がなく高く評価されるべきことである。

【各種SDプログラム】

・経営者・管理者養成プログラムは、SD部門に限られてはいるが、今後、本邦の大学経営を担う人材を育成するために必須のプログラムであり、ここでの実績と経験は今後、マネジメントを担うプロフェッショナル養成のための貴重な知見となろう。

・スタッフ・ポートフォリオは、教員と同様、職員の業績記録を残し、振り返りを進める上で必須の道具となることが予想される。今後、それをどのように普及させ、評価に活用するか、さらなる研究が進むことを期待する。

【講師養成】

・SDプログラムの講師自体を講座の中で養成する仕組みは効果的であり、かつ今後の発展のために重要な取組である。

・参加者からの満足度も高く、SDの裾野を広げる取り組みとして素晴らしい。

【SPOD-SDC】

・SPOD-SDCの認定はSPODにおける特徴的な取り組みである。資格認定に関しては、SPODに特化したものではあるものの、これが今後SDを担う人材のスタンダードになりうる可能性があり、また、それを目指していただければとも思う。

（弱み）

【全体】

・このSD事業が各大学においてどのように位置づけられているのかによって、普及の速度や範囲が異なってくると思われる。各大学の執行部の共通理解を促進する仕組みが必要である。

・国大協や私大協、私大連盟などの大学団体の行う研修との棲み分けも意識していく必要があるのではないか。

・SDプログラムを受講した参加者がその事実をどう評価されるのか、その評価枠組みについても好ましい適用のあり方や、事例の提示など、評価として定着を促す方向性を示す必要がある。

【講師養成】

・SDに対する考え方の違いから、職員の成長モデルに違和感をもつところもある。例えば、研

修講師を担える職員を育成するプログラムについては、T F A (Teach For America) の取組み等と比較しながら検討する余地はあるかもしれない。S P O Dのプログラムでは、研修講師になること（手段）が目的化しているように見えてしまう。

③組織運営等

（強み）

【将来構想WG】

- ・将来構想ワーキングが発足し、10年目に向けたS P O Dの運営について議論を始めたことは極めて重要である。
- ・将来的な方向性についての検討できる組織体制が整っている。

【調査・研究プロジェクト】

- ・カークパトリックの第三、第四レベルでの効果検証をめざして、今年度初めて過去にさかのぼる効果検証を行った。引き続きこの取組を推進されることを期待する。
- ・調査・研究プロジェクト事業として、FDに関する連携効果検証のワーキンググループおよび連携効果・組織変容検証プロジェクトチームが構成され、種々の研修プログラムが実施にとどまらず検証を行い、それが研究として発信される方向性は日本の高等教育全体の質向上に資する取り組みとして高く評価すべきことと思う。

【フォーラム】

- ・S P O Dフォーラムは全国的に認知され、S P O D自身にも大きな自信を与えている。その先進性と他地域の大学に対する貢献は大いに評価できる。体制としても安定した開催がなされており、今後も引き続き開催継続をしてほしい。

【その他】

- ・四国全体の高等教育機関に定着している。
- ・四国以外の大学関係者にも影響が及んでいる。
- ・毎年新しいプログラムの開発が計画的に実施されており、計画的な運営体制が整っていることはS P O Dの体制が安定していることの証左かと思う。

（弱み）

- ・将来構想ワーキンググループが3回開かれているものの、得られている結論は前年度でも既に問題とされている課題であり議論が進んでいないようにみえる。また、このワーキングで提案されることがどの程度の実効性を持つものなのか、その位置づけが重要ではないか。
- ・一大学からの退会をどのように位置付けるか。捉え方によっては、これを契機に検討できることもあるだろう。
- ・事業を見直し、整理し（分類を見直し）ていくことは考えられる。例えば、「FD事業」、「SD事業」といったカテゴリーで全体を眺めるのではなく、「研修事業」として、教員対象（FD）／職員対象（SD）というようなツリー化、同じように「ポートフォリオの開発」として、ティーチング／アドミニストレーションというように、各事業の再配置を考え、プログラムの過不足を再考するといった具合である。それが進めば、出版事業や広報（ウェブ）事業も加わり、その進捗が見えてくるかもしれない。
- ・運営の中心に私立大学の職員が極めて少ない。

【2】次年度実施に向けての提案

【全体】

- ・SPODの目標に対応する単年度（もしくは複数年度）の達成目標を掲げ、それぞれの達成目標をどのプロジェクト、プログラム群で達成するのか、そしてそれが達成されたことを見極める評価指標、評価基準は何なのかを事前に示す必要がある。報告書自体は、それらの達成目標がどの程度達成されたかを簡潔に述べるだけで十分である。

- ・将来構想ワーキンググループの更なる実質化に期待する。実質化にあたって配慮を願いたいことは、WGメンバーの構成が、SPODの縮図となっているような仕掛けである。大学・短大や高専、教員や職員、管理職や若手、地域性というように、リソース（ステークホルダー）を広げての検討が待たれる。

【運営】

- ・特定の教職員、特定の大学への業務集中を避けることが継続可能性につながるのではないかな。

【加盟校に対して】

- ・各加盟校の取組報告を見た限りでは、大学としての教育活動や事務局業務の組織的な改革にどのような変化があったのか定かではないものが多いので、その点を記述してもらうようにしたらいかがだろうか。

- ・SPOD（の将来）に対する参画（当事者）意識を高めるための工夫が重要である。

- ・SPODとしての取り組みについて、各加盟校の教職員に対するより一層の広報活動と、そのプログラム参加の価値付けを各加盟校に確立していくことが期待される。

【調査・研究プロジェクト】

- ・調査研究部門が整備されてきたので、これまでの受講生や指導者からの声や意見などのビッグデータを研究対象とすることができる。これらを解析することによって新たなプログラム創設等に利用されることを期待する。

- ・受講時の満足度は極めて高く大変良いが、彼らが受講して数年後に、SPODで学んだことで、「何ができるようになったのか」「何を変えることができたか」改めて検証する必要がある。訪問調査なども行われているとのことなので結果に基づいたプログラムの検証も必要だと思う。

【各種プログラム】

- ・研修プログラムのカテゴリをもう少し具体化する。現在の「授業の基本」、「大学職員としての基礎的能力」等のカテゴリは大区分すぎて内容が分かり難い。発足当初はよいネーミングであったかもしれないが、受講し易くするために中分類的なレベルで区分し、もう少し具体的に理解できるような分類の開発を願えればと思う。

- ・受講生が学んだ上で、研修の講師を務めることは、「教えることは学ぶこと」にもなるので大変良いが、若手職員が、講師の職員を将来の自分のロールモデルとするというのは、どのような点なのか整理しておく必要がある。

SPOD事業の定量的指標達成度一覧(案)

【上位目的】学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった
「高等教育のプロフェッショナル」を四国から輩出する

【目的】四国地区の大学及び高等専門学校の連携・協働により、
地区内のFD/SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図る

1. FD事業		2. SD事業		3. SPODフォーラム		4. SPOD共通事業		5. SPOD運営	
1-1)新任教員研修の 開発・実施		2-1)大学人・社会人としての 基礎力養成プログラムの 実施		3-1)SPODフォーラム の実施		4-1)SPOD内講師派遣 の実施		5-1)各種会議の実施 ・総会、監査、FD/SD分科会 ・ネットワークコア運営協議会 ・事業評価委員会 ・その他 SPOD加盟校県内会議等	
達成度※1 (5段階)		達成度※1 (5段階)		達成度※1 (5段階)		達成度※1 (5段階)			
①プログラム数	5	①プログラム数	5	①プログラム数	5	①プログラム数	5		
②参加者数	3	②参加者数	4	②参加者数	5	②参加者数	4		
③参加校数(延べ・実数)	5・2	③参加校数(延べ・実数)	5・3	③参加校数(実数)	5	③参加校数(延べ・実数)	5・5		
④満足度	5	④満足度	5	④満足度	5	④満足度	5		
1-2)ティーチング/ アカデミック・ポートフォリ オ作成WSの実施		2-2)次世代リーダー 養成ゼミナールの実施				4-2)SPOD将来構想ワーキング グループの実施			
達成度※1 (5段階)		達成度※1 (5段階)							
①プログラム数	5	①プログラム数	5						
②参加者数	1	②参加者数	4						
③参加校数(延べ・実数)	1・1	③参加校数(延べ・実数)	5・1						
④満足度	5	④満足度	—						
1-3)その他各種FDプログ ラムの実施		2-3)職員のための講師養 成講座の実施				4-3)調査・研究プロジェクト事業の実施			
達成度※1 (5段階)		達成度※1 (5段階)							
①プログラム数	5	①プログラム数	5						
②参加者数	1	②参加者数	4						
③参加校数(延べ・実数)	5・5	③参加校数(延べ・実数)	1・1						
④満足度	5	④満足度	5						
※1月末までのプログラムで集計		※アンケート実施せず				4-4)広報事業の実施 ・研修プログラムガイドの発行 ・SPOD活動報告書の発行 ・SPODホームページの管理・更新 ・メールマガジンの発行			
						SPODホームページ			
						達成度※1 (5段階)			
						⑤トップページ閲覧数			
						4			
						⑥PDF資料等ダウンロード数			
						5			
						※H27.4.1～H28.1.5期間の数値			

(表の見方) ※詳細な数値は別紙参照

番号	指標	実績	達成度※1 (5段階)	達成率 (%)
①	実施予定プログラム数 (単位:件)	実施プログラム数	達成率 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	実績 指標
②	プログラム定員数 (単位:人)	延べ参加者数		
③	SPOD加盟校数 (単位:法人)	参加校数(延べ数) “(実数)”		
④	満足度目標率 (単位:%)	事後アンケート 満足度		
⑤	トップページ閲覧目標 数(単位:件)	トップページ閲覧数		
⑥	PDF資料等ダウンロー ド目標数(単位:件)	PDF資料等ダウン ロード数		

別紙（案）

1. FD事業

1-1)新任教員研修の開発・実施				
	指標	実績	達成度※1 (5段階)	達成率 (%)
①プログラム数	5	5	5	100
②参加者数	150	108	3	72
③参加校数(延べ数)	24	24	5	100
〃 (実数)		16	2	67
④満足度	100	96	5	96

1-2)ティーチング・ポートフォリオ/ アカデミック・ポートフォリオ作成WSの実施				
①プログラム数	4	4	5	100
②参加者数	50	25	1	50
③参加校数(延べ数)	24	12	1	50
〃 (実数)		9	1	38
④満足度	100	96	5	96

※徳島3.9-11実施予定

1-3)その他各種FDプログラムの実施				
①プログラム数	29	28	5	97
②参加者数	1118	372	1	33
③参加校数(延べ数)	24	52	5	100
〃 (実数)		23	5	96
④満足度	100	95	5	95

※残り1プログラム実施予定

(参考:加盟校外1(外数))

※1月末までのプログラムで集計

3. SPODフォーラム

3-1)SPODフォーラムの実施				
	指標	実績	達成度※1 (5段階)	達成率 (%)
①プログラム数	39	39	5	100
②参加者数	1661	1507	5	91
③参加校数(実数)	24	22	5	92
④満足度	100	93	5	93

(参考:加盟校外87(外数))

(表の見方)

番号	指標	実績	達成度※1 (5段階)	達成率 (%)
①	実施予定プログラム数 (単位:件)	実施プログラム数	達成率 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	実績 指標
②	プログラム定員数 (単位:人)	延べ参加者数		
③	SPOD加盟校数 (単位:法人)	参加校数(延べ数)		
		〃 (実数)		
④	満足度目標率 (単位:%)	事後アンケート 満足度		
⑤	トップページ閲覧目標 数(単位:件)	トップページ閲覧数		
⑥	PDF資料等ダウンロード 目標数(単位:件)	PDF資料等ダウン ロード数		

2. SD事業

2-1)大学人・社会人としての基礎力養成プログラムの実施				
	指標	実績	達成度※1 (5段階)	達成率 (%)
①プログラム数	5	5	5	100
②参加者数	230	186	4	81
③参加校数(延べ数)	24	40	5	100
〃 (実数)		17	3	71
④満足度	100	100	5	100

※見直しWSを除く

2-2)次世代リーダー養成セミナーの実施				
①プログラム数	4	4	5	100
②参加者数	162	143	4	88
③参加校数(延べ数)	24	54	5	100
〃 (実数)		12	1	50
④満足度※	-	-	-	-

※アンケート実施せず

2-3)職員のための講師養成講座の実施				
①プログラム数	2	2	5	100
②参加者数	22	18	4	82
③参加校数(延べ数)	24	8	1	33
〃 (実数)		6	1	25
④満足度	100	100	5	100

※1/21-22愛媛実施予定

(参考:加盟校外7(外数))

4. SPOD共通事業

4-1)SPOD内講師派遣の実施				
	指標	実績	達成度※1 (5段階)	達成率 (%)
①プログラム数	22	22	5	100
②参加者数	805	653	4	81
③参加校数(延べ数)	24	30	5	100
〃 (実数)		22	5	92
④満足度	100	96	5	96

※2/18高松実施予定

SPODホームページ				
	指標	実績	達成度※1 (5段階)	達成率 (%)
⑤トップページ閲覧数	70,000	61,236	4	87
⑥PDF資料等 ダウンロード数	7,000	7,709	5	100

※H27.4.1～H28.1.5期間の数値

平成28年度SPOD事業スケジュール計画（案）

1. SPOD共通事業

- ・SPODフォーラム
平成28年8月24日（水）～26日（金）（3日間） 開催場所：愛媛大学
「全体テーマ：経験を学びに変える（仮）」
トップリーダーセミナーを併せて開催
教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）後援
- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計24回） 開催場所：各加盟校
原則として、1法人あたり1回とする。ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。~~S-Dプログラムを充実させる予定。~~
- ・FD・SDに関する調査研究
- ・SPOD将来構想ワーキンググループ
- ・情報提供サービス
 - ①研修プログラムガイド2016の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）
 - ②平成28年度SPOD活動報告書の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）
 - ③SPODホームページの管理・更新
 - ④SPODメールマガジンの発行（月1回程度）
- ・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

- ・FD担当者研修 開催場所：愛媛大学
- ・新任教員研修（年5回）の実施・公開 開催場所：各コア校（愛媛大学は2回実施）
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年2回）の公開・実施
 - ①全加盟校教員対象（年1回）
開催場所：徳島大学
 - ②高専対象（年1回） 開催場所：愛媛大学
開催場所：愛媛大学
- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）
開催場所：高知大学，愛媛大学
レベルⅠ（新任職員研修） 1回（高知大学）
レベルⅠ 1回（愛媛大学）
レベルⅡ 1回（愛媛大学）
レベルⅢ 1回（愛媛大学）
共通科目 1回（愛媛大学）
主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学，愛媛大学
- ・国際連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学
- ・社会連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学
SPODフォーラム2016において開催
主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年4回）
開催場所：愛媛県，香川県，徳島県，高知県
主担当：SPOD事務局 協力校：各コア校
- ・職員のための講師養成講座（年2回） 開催場所：愛媛大学2回
主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

4. SPOD運営

- ①総会（年1回）
- ②ネットワークコア運営協議会（月1回程度）
- ③事業評価委員会（年1回）
- ④監査（年1回）
- ⑤その他
 - i. FD／SD分科会
 - ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ii. SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

※青字箇所 前回からの主な変更箇所

※赤字箇所 昨年度からの主な変更箇所

平成28年度SPOD事業スケジュール計画（案）

1. SPOD共通事業

・SPODフォーラム

平成28年8月24（水）～26日（金）（3日間） 開催場所：愛媛大学

「全体テーマ：経験を学びに変える（仮）」

トップリーダーセミナーを併せて開催

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）と共催後援

・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計24回） 開催場所：各加盟校

原則として、1法人あたり1回とする。ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。SDプログラムを充実させる予定。

・SPOD将来構想ワーキンググループ

・FD・SDに関する調査研究プロジェクト事業

~~年1テーマを研究対象とする予定~~

~~①連携効果・組織変容検証プロジェクト（FD部門）~~

~~②連携効果・組織変容検証プロジェクト（SD部門）~~

・情報提供サービス

①研修プログラムガイド2016の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）

②平成28年度SPOD活動報告書の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）

③SPODホームページの管理・更新

④SPODメールマガジンの発行（月1回程度）

・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

・FD担当者研修 開催場所：愛媛大学

・新任教員研修（年5回）の実施・公開 開催場所：各コア校（愛媛大学は2回実施）

・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年2回）の公開・実施

①全加盟校教員対象（年1回）

開催場所：徳島大学

②高専対象（年1回） 開催場所：愛媛大学

~~・ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップの実施・公開※~~

開催場所：愛媛大学

・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）

開催場所：高知大学，愛媛大学

レベルⅠ（新任職員研修） 1回（高知大学）

レベルⅠ 1回（愛媛大学）

レベルⅡ 1回（愛媛大学）

レベルⅢ 1回（愛媛大学）

共通科目 1回（愛媛大学）

主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学，愛媛大学

- ・国際連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学

- ・社会連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学

SPODフォーラム2016において開催

主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年4回）

開催場所：愛媛県，香川県，徳島県，高知県

主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学各コア校

- ・職員のための講師養成講座（年2回） 開催場所：愛媛大学2回

主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

~~・スタッフ・ポータルサイトの作成ワークショップ~~

~~※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）主催事業として実施~~

4. SPOD運営

①総会（年1回）

②ネットワークコア運営協議会（月1回程度）

③事業評価委員会（年1回）

④監査（年1回）

⑤その他

i. FD／SD分科会

- ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催

- ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催

ii. SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

~~※を付したプログラムについては，教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）主催事業として実施し，SPOD加盟校にも開放する。~~

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」の役員の改選について（案）

平成28年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の実施にあたって、「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約（以下「規約」という。）第8条第1項、第3項、第5項及び第7項、第10項に基づき、徳島大学長改選に伴い、平成28年度副会長（徳島大学長）の改選を行う。任期については、前任者の残任期間である平成29年3月31日までとする。

副会長（規約第8条第1項、第3項、第5項及び第7項関係）

徳島大学 野地 澄晴 次期学長（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

徳島大学 香川 征 学長 （平成27年4月1日～平成28年3月31日）

【参考】「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約（抄）

（代表校）

第7条 コア校※のうち、1校をSPODの代表校とする。

2 代表校は、コア校の互選により選出する。

3 代表校の任期は2年とし、再任を妨げない。

（会長、副会長、監事及び企画・実施統括者）

第8条 SPODに、会長（1名）、副会長（3名）、監事（2名）及び企画・実施統括者（1名）を置く。

2 会長及び企画・実施統括者は、代表校から選出する。

3 副会長は、代表校を除くコア校から選出する。

4 監事は、コア校を除く加盟校から選出する。

5 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

6 会長は、SPODを代表する。

7 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

8 監事は、会計を監査する。

9 企画・実施統括者は、SPOD活動に係る企画及び実施を統括する。

10 補欠による会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、前任者の残任期間とする。

（事務局）

第12条 SPODの事務局は、代表校に置き、加盟校の協力を得て運営にあたる。

※コア校とは、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学を指す。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿

任期：平成27年4月1日～平成29年3月31日

※副会長（徳島大学長）の任期は平成28年4月1日～平成29年3月31日

会 長	大 橋 裕 一	愛媛大学長
副 会 長	野 地 澄 晴 ※	徳島大学長
副 会 長	長 尾 省 吾	香川大学長
副 会 長	脇 口 宏	高知大学長
監 事	佃 昌 道	高松大学・高松短期大学長
監 事	橋 本 公 二	愛媛県立医療技術大学長
企画・実施統括者	小 林 直 人	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室 室長

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
及びFD／SD分科会 実施要項（案）

主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
日 時：平成28年3月24日（木） 13：30～16：30
出席者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等
（FD／SD分科会）加盟校 FD／SD担当者等
場 所：（総会）愛媛大学城北キャンパス総合情報メディアセンター1階
メディアホール
（FD／SD分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ3階M32, 33

【総 会】

13：30 開会挨拶（大橋裕一 愛媛大学長）

1. 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の総括について
2. 平成27年度事業収支及び会計監査について
 - （1）平成27年度事業収支について
 - （2）平成27年度会計監査について
3. 役員の改選について
4. 平成28年度事業計画について
5. 平成28年度事業予算について
6. その他
 - （1）SPOD将来構想について
 - （2）SPODフォーラム四国地区各県持ち回り開催について
 - （3）SPOD事業評価委員会委員について
 - （4）平成27年度FD／SD活動の取組報告について
7. 意見交換

15：00 閉会

【FD／SD分科会】※FD分科会及びSD分科会を2箇所で開催

15：30 各加盟校での取り組み状況の報告
今後の具体的な事業の進め方について
意見交換 など

16：30 閉 会

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施について

1. 日 程 平成28年3月11日（金）14：00～15：00

場 所 愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ3階会議室

出席者 （監事）高松大学・高松短期大学長 佃 昌道

2. 日 程 平成28年3月16日（水）10：30～11：30

場 所 愛媛県立医療技術大学

出席者 （監事）愛媛県立医療技術大学長 橋本 公二

対 応 者：小林企画・実施統括者（愛媛大学），SPOD事務局

実施内容 ：①平成27年度事業予算執行状況報告

②平成27年度事業実施状況報告

③質疑応答

※会計監査結果については、3月24日（木）開催のSPOD総会において報告
するが、両監事ともご都合がつかないため、愛媛県立医療技術大学の代理出席者
（宮内保健科学部長）に報告を依頼予定。

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)

事業評価委員会実施要項(案)

(趣旨)

平成27年度における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(ネットワーク略称=SPOD)」の活動内容や前年度の評価委員からの指摘事項に対する改善状況について、実績報告書をもとにSPOD事業評価委員会委員から評価を行っていただき、今後の事業推進に役立てる。

(主催)

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(日時)

平成28年3月10日(木)13:30～16:30

(場所)

愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ3階会議室(松山市文京町3番)

(参加予定者)

SPOD事業評価委員会委員

福島委員(追手門学院大学), 徳永委員(大学コンソーシアム京都)

※田中委員(九州大学)は欠席予定

SPOD関係者

ネットワークコア校のSPOD-FD/SD担当者

(事務担当)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課(SPOD事務局)

S P O Dの将来構想案について

今年度, S P O Dでは平成 27 年 10 月 21 日に愛媛大学で S P O D将来構想ワーキングを実施し, S P O Dの今後の取組内容(将来構想)について検討した。その検討結果を基に, 平成 27 年 12 月にメール審議, 平成 27 年 12 月 21 日にコア運営協議会の場で意見交換を行い, 以下のとおり S P O Dの将来構想案(長期的方針, 中期的方針)を作成した。

S P O Dの将来構想案

長期的方針 ※～平成 3 5 年度

1. S P O Dという名称は継続的に使用する
能力開発の地域ネットワークのリーダーとしてプレゼンスを高めていく
2. S P O Dフォーラムを国内最高の教職員研修の機会にする
既存のFD・SDプログラムをフォーラムに集約する
ポスターセッションなどの相互研修機能を強化する
3. SDの取り組みを発展させる
SD義務化などの政策へ対応する
SDのプログラムおよび教材を開発する
講師派遣事業を行う
4. FDの取り組みは焦点化して取り組む
S P O Dフォーラムにおいて多様なFDを提供する
各加盟校でのFD担当者の養成を支援する
加盟校で実施するプログラムを公開する
5. 持続可能なS P O Dの組織体制を構築する
各加盟校のFD, SD戦略に組み込む
長期的にS P O Dフォーラムの開催校を確定する
安定的な財政基盤を維持する

中期的方針(リーフレット改訂を含む) ※～平成 2 9 年度

FD・SD共通

- FS-1 S P O Dフォーラムの開催
- FS-2 コンサルティング・講師派遣事業
- FS-3 FD・SDに関する調査研究
- FS-4 情報提供サービス

FD

- F-1 FD担当者の養成
- F-2 新任教員研修の実施、公開
- F-3 ティーチングポートフォリオ研修
- F-4 各加盟校におけるプログラムの公開

SD

- S-1 SDプログラムの体系的・段階的・継続的实施
- S-2 次世代リーダー養成プログラムの実施
- S-3 SD講師養成によるSPOD-SDの継続的な実施
- S-4 SPOD-SDCの輩出

S-1 SDプログラムの体系的・段階的・継続的实施

- (a) 大学人・社会人としての基礎力養成プログラムの実施
職務遂行力（テクニカルスキル）、人間力（ヒューマンスキル）、管理・運営力（マネジメントスキル）、等を養成するプログラム
- (b) 職務別能力養成プログラムの実施
学務系職員、社会連携系職員、国際連携系職員、等に必要な能力を養成するプログラム

S-2 次世代リーダー養成プログラムの実施

次代のトップリーダーとして大学等の経営を担うために必要な「理論」「技能」「態度」を段階的に学び・修得する140時間を超える総合研修プログラム

S-3 SD講師養成によるSPOD-SDの継続的な実施

自律（立）的運営を目指し、SPOD-SDプログラムにより知識・技能・態度を身につけた職員自らが、次のSPOD-SDプログラムの講師となるサイクルの確立

S-4 SPOD-SDCの輩出

自大学のSD活動を振り返り、強みと課題を理解したうえで、新しい情報や他者からの助言を参考に課題の解決策を見出せるSDの実践的指導者（SDコーディネーター／SDC）の養成

(1) 将来構想WG構成員

徳島大学 総合教育センター教育改革推進部門准教授 宮田政徳
香川大学 大学教育基盤センター能力開発部准教授 葛城浩一
愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室長 小林直人◎ (SPOD企画・実施統括者)
教育・学生支援機構教育企画室副室長 中井俊樹
広報室(兼)教育・学生支援機構教育企画室講師 阿部光伸
教育学生支援部長 吉田一恵
教育学生支援部教育企画課長 神智彦
高知大学 大学教育創造センター准教授 立川明
※将来構想WGの座長は、◎印の者。

(2) 将来構想WGの開催記録

平成25年度第1回

日時：平成26年3月20日(木) 16:45～17:30
場所：愛媛大学愛大ミューズ3階ミーティングルーム
議題：SPOD将来構想ワーキンググループにおける議論の進め方について

平成26年度第1回

日時：平成26年6月24日(火) 13:30～15:30
場所：愛媛大学愛大ミューズ3階会議室
議題：SPODの今後の運営について

平成26年度第2回

日時：平成26年10月29日(水) 9:30～17:00
場所：愛媛大学愛大ミューズ3階会議室
議題：SPOD将来構想，SPOD取組(講師派遣，フォーラム等)の見直しについて

平成26年度第3回

日時：平成27年1月
場所：メール審議
議題：SPOD将来構想ワーキングまとめ(案)について

平成27年度第1回

日時：平成27年10月21日(水) 13:30～17:00
場所：愛媛大学愛大ミューズ3階会議室
議題：SPOD取組内容の検討について、SPODフォーラムの持ち回りについて

平成27年度第2回

日時：平成27年12月
場所：メール審議
議題：SPODの将来構想案について

「SPODフォーラム」四国地区各県持ち回り開催について

平成27年11月13日
ネットワークコア運営協議会決定

1 SPODフォーラム持ち回りスケジュール

回	開催年度	開催県（当番大学等）	社会教育主事講習 当番校
1～3	平成21（2009）年度 ～23（2011）年度	愛媛県（愛媛大学）	—
4	平成24（2012）年度	徳島県（徳島大学）	愛媛大学
5	平成25（2013）年度	愛媛県（愛媛大学）	高知大学
6	平成26（2014）年度	高知県（高知大学・県内加盟大学等）	徳島大学鳴門教育 大学
7	平成27（2015）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
8	平成28（2016）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	愛媛大学
9	平成29（2017）年度	徳島県（徳島大学・県内加盟大学等）	高知大学
10	平成30（2018）年度	香川県（香川大学・県内加盟大学等）	徳島大学又は鳴門教育大学
11	平成31（2019）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
12	平成32（2020）年度	高知県（高知大学・県内加盟大学等）	愛媛大学
13	平成33（2021）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	高知大学
14	平成34（2022）年度	香川県（香川大学・県内加盟大学等）	徳島大学又は鳴門教育大学
15	平成35（2023）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
16	平成36（2024）年度	徳島県（徳島大学・県内加盟大学等）	愛媛大学
17	平成37（2025）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	高知大学

※社会教育主事講習の当番校とフォーラムの当番校が重なる場合には、会場及び運営スタッフの都合上、原則翌年度の開催大学と入れ替えて開催する。

2 SPODフォーラム実施体制等

（1）開催県内大学等との協働実施

当番大学及び開催県内大学等は、フォーラムの実施体制を強化するため、連携・協力し、フォーラムの開催準備、会場運営等を協働で行う。

（2）コア校教職員協働による会場運営

フォーラム当日の会場運営は、当番大学以外のコア校の教職員（1～2名程度）及びSPOD事務局が当番大学と協働で行う。